

第27回 サル痘に関する関係省庁対策会議幹事会

日 時：令和5年4月11日（火） 14：30

議 題：サル痘患者の発生について

資料1：報道発表資料（厚生労働省・東京都・大阪府・千葉県）

※厚生労働省、東京都、大阪府、千葉県の本症例に関する報道発表資料です。

報道関係者 各位

令和 5 年 4 月 11 日

【照会先】厚生労働省 健康局 結核感染症課
感染症情報管理室長 今川正紀（内線 2389）
課長補佐 杉原淳（内線 2373）
（代表番号） 03（5253）1111
（直通番号） 03（3595）2257

サル痘患者の発生について

本日、以下の男性 10 名について、検査の結果、サル痘の患者と確認されたことが、東京都、大阪府及び千葉県から報告されました。（別紙 1：東京都プレスリリース、別紙 2：大阪府プレスリリース、別紙 3：千葉県プレスリリース）

我が国では、サル痘は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成 10 年法律第 114 号）において、4 類感染症に指定されており、届出義務の対象となっています。

患者に関する情報は、以下のとおりです。

年代	性別	症状	医療機関 受診日	居住自治体 （居住地）	海外 渡航歴	その他
30 代	男性	発熱、発疹、 リンパ節腫脹	3 月 30 日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
20 代	男性	発疹、その他 の皮膚粘膜病 変、発熱、肛 門直腸痛	3 月 30 日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
20 代	男性	発疹、その他 の皮膚粘膜病 変、発熱、咽 頭痛、肛門直 腸痛、 リンパ節腫脹	3 月 31 日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
40 代	男性	発熱、リンパ 節腫脹、その 他皮膚病変	4 月 1 日	神奈川県	なし	・患者の状態は安定している。

40代	男性	発疹、発熱、 咽頭痛	4月3日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
40代	男性	発疹、頭痛、 咽頭痛、リン パ節腫脹	4月4日	神奈川県	なし	・患者の状態は安定している。
30代	男性	発疹、発熱、 リンパ節腫脹	4月6日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
40代	男性	発疹、発熱、 倦怠感、リン パ節腫脹	4月6日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
40代	男性	発疹	3月31日	兵庫県	なし	・患者の状態は安定している。
20代	男性	発疹、発熱、 肛門直腸痛	4月7日	千葉県	なし	・患者の状態は安定している。

報道機関各位におかれましては、ご本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。医療機関への直接の取材や問い合わせはお控えください。

国民の皆様へのメッセージ

サル痘は、サル痘ウイルスによる急性発疹性疾患です。主にアフリカ大陸に生息するリスなどのげっ歯類が自然宿主とされており、感染した動物に噛まれたり、感染した動物の血液、体液、皮膚病変（発疹部位）との接触による感染が確認されています。主に感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合（性的接触を含む）、患者と近くで対面し、長時間の飛沫にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等により感染します。これまでアフリカ大陸の流行地域（アフリカ大陸西部から中央部）で主に発生が確認されていましたが、2022年5月以降海外渡航歴のないサル痘患者が欧米等を中心に世界各国で確認されています。

サル痘の潜伏期間は6～13日（最大5～21日）とされており、潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が0～5日続き、発熱1～3日後に発疹が出現、発症から2～4週間で治癒するとされています。

発熱、発疹等、体調に異常がある場合には身近な医療機関に相談するとともに、手指消毒等の基本的な感染対策を行ってください。

海外からの帰国者は、体調に異常がある場合は、到着した空港等の検疫ブースで検疫官に申し出てください。帰国後に症状が認められた場合は、医療機関を受診し、海外への渡航歴を教えてください。

なお、海外では、サル痘の予防に対しては、天然痘ワクチンが有効であるとの報告がなされており、ウイルスへの曝露後4日以内の接種で感染予防効果が、曝露後4～14日以内の接種で重症化予防効果があるとされています。国内で承認されている天然痘ワクチンについては、令和4年8月2日にサル痘の予防への適応が追加で承認されたところであり、国内において、接触者の方に対して必要に応じて投与するための体制を構築しています。

サル痘患者の発生について

都内の医療機関を受診していた以下の方について、検査の結果、サル痘の陽性が確定しました。

なお、報道機関各位におかれましては、御本人やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控えください。

【患者の概要】 8名（うち都内居住者6名、都外居住者2名）

No.	年代	性別	症状	医療機関 受診日	居住自治体 (居住地)	海外 渡航歴	その他
1	30代	男性	発疹、発熱、 リンパ節腫脹	3月30日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
2	20代	男性	発疹、その他の 皮膚粘膜病 変、発熱、肛 門直腸痛	3月30日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
3	20代	男性	発疹、その他の 皮膚粘膜病 変、発熱、咽 頭痛、肛門直 腸痛、 リンパ節腫脹	3月31日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
4	40代	男性	発熱、リンパ 節腫脹、その 他皮膚病変	4月1日	都外	なし	・患者の状態は安定している。
5	40代	男性	発疹、発熱、 咽頭痛	4月3日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
6	40代	男性	発疹、頭痛、 咽頭痛、リン パ節腫脹	4月4日	都外	なし	・患者の状態は安定している。
7	30代	男性	発疹、発熱、 リンパ節腫脹	4月6日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。
8	40代	男性	発疹、発熱、 倦怠感、リン パ節腫脹	4月6日	東京都	なし	・患者の状態は安定している。

【サル痘とは】

- サル痘は、サル痘ウイルスによる感染症で、中央アフリカから西アフリカにかけて流行しています。日本では感染症法上の四類感染症に指定されています。
また、2022年5月以降、欧州や米国等で市中感染の拡大が確認されています。
- サル痘の潜伏期間は6～13日（最大5～21日）とされており、潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が0～5日続き、発熱1～3日後に発疹が出現、発症から2～4週間で治癒するとされています。
- サル痘の流行地では、げっ歯類やサル・ウサギなどの動物との接触や、感染が疑われる人の飛沫・体液等を避ける、手指衛生を行うなど、感染予防対策を心がけ、感染が疑われる場合には、直ちに医師の診察を受けてください。

令和 5 年 4 月 11 日
大阪府感染症対策企画課
記者発表資料
(厚生労働省同時発表)

サル痘患者の発生について

府内の医療機関を受診していた以下の方について、府内の衛生研究所で検査したところ、サル痘の陽性が確定しました。

なお、報道機関各位におかれましては、患者様やご家族などが特定されないよう、個人情報保護にご配慮下さい。また、医療機関への取材や直接のお問い合わせはお控えください。

【患者等の概要】

年代	性別	症状	医療機関 受診日	居住自治体 (居住地)	海外 渡航歴	その他
40代	男性	発疹	3月31日	大阪府外	なし	患者の状態は安定している

【参考：府民の皆様へのメッセージ】

○サル痘は、サル痘ウイルスによる感染症で、中央アフリカから西アフリカにかけて流行しています。日本では感染症法上の四類感染症に指定されています。2022年5月以降、海外渡航歴のないサル痘患者が欧米等を中心に世界各国で確認されています。

○主に、感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合(性的接触を含む)により感染します。また、患者と近くで対面し、長時間の飛沫にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等も感染の可能性があります。現時点では、日常生活の中で空気感染を起こすことは確認されていません。

○サル痘の潜伏期間は6から13日間(最大5から21日間)とされており、潜伏期間の後、発熱、頭痛、リンパ節腫脹、筋肉痛などの症状が0から5日続き、発熱1から3日後に発疹が出現、発症から2から4週間で治癒するとされています。

○過剰に心配することなく、発熱、発疹といった症状がある場合には、マスク着用の上、衣服やガーゼ等で皮膚の病変を覆い、お近くの医療機関を受診してください。

令和5年4月11日
千葉県健康福祉部疾病対策課
043-223-2574

サル痘患者の発生について

病名	サル痘		
住所	県内	年齢・性別	20代・男性
症状等	発疹、発熱、肛門直腸痛		
発病年月日	令和5年3月28日	届出年月日	令和5年4月7日
<p>県内在住の方で、発熱、発疹等の症状を呈し、4月7日に県内の医療機関を受診した方について、千葉県衛生研究所において検体を検査した結果、同日にサル痘の陽性が判明し、医師から所管保健所に発生届がありました。</p> <p>なお、患者の状態は安定しています。</p> <p>県内においてサル痘患者が診断されたのは、3例目となります。</p> <p>〔患者発生の経過〕</p> <p>3月28日 発熱、肛門痛、発疹の症状出現</p> <p>4月1日 解熱</p> <p>4月3日 県内医療機関 A 受診</p> <p>4月6日 県内医療機関 B 受診</p> <p>4月7日 県内医療機関 C を受診し検体採取</p> <p>千葉県衛生研究所における検査の結果、サル痘の陽性が確定</p> <p>4月7日 医師から所管保健所に発生届が提出</p>			
<p>【県民の皆様へ】</p> <ul style="list-style-type: none">サル痘は、サル痘ウイルスによる急性発疹性疾患です。主にアフリカ大陸に生息するリスなどのげっ歯類が自然宿主とされており、感染した動物に噛まれたり、感染した動物の血液、体液、皮膚病変（発疹部位）との接触による感染が確認されています。主に感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液に触れた場合（性的接触を含む）、患者と近くで対面し、長時間の飛沫にさらされた場合、患者が使用した寝具等に触れた場合等により感染します。これまでアフリカ大陸の流行地域（アフリカ大陸西部から中央部）で主に発生が確認されていましたが、令和4年5月以降海外渡航歴のないサル痘患者が欧米等を中心に世界各国で確認されています。発熱、発疹等、体調に異常がある場合には身近な医療機関に相談するとともに、手指消毒等の基本的な感染対策を行ってください。			

【参考】

サル痘とは

1 病原体

ポックスウイルス科オルソポックスウイルス属のサル痘ウイルス

コンゴ盆地型（クレード1）と西アフリカ型（クレード2及び3）の2系統に分類される。

コンゴ盆地型（クレード1）による感染例の死亡率は10%程度であるのに対し、西アフリカ型（クレード2及び3）による感染例の死亡率は1%程度と報告されている。

2 感染経路

アフリカに生息するリスなどのげっ歯類をはじめ、サルやウサギなどウイルスを保有する動物との接触によりヒトに感染する。

また、感染した人や動物の皮膚の病変・体液・血液との接触（性的接触を含む）、患者との接近した対面での飛沫への長時間の曝露(prolonged face-to-face contact)、患者が使用した寝具等との接触等により感染する。

皮疹の痂皮をエアロゾル化することで空気感染させた動物実験の報告があるものの、実際に空気感染を起こした事例は確認されていない。

3 潜伏期

7～14日（最大5～21日）

4 治療と診断

（1）臨床症状：

- ・発熱、頭痛、リンパ節腫脹などの症状が0-5日程度持続し、発熱1-3日後に発疹が出現。
- ・リンパ節腫脹は顎下、頸部、鼠径部に見られる。
- ・皮疹は顔面や四肢に多く出現し、徐々に隆起して水疱、膿疱、痂皮となる。
- ・多くの場合2-4週間持続し自然軽快するものの、小児例や、あるいは曝露の程度、患者の健康状態、合併症などにより重症化することがある。
- ・皮膚の二次感染、気管支肺炎、敗血症、脳炎、角膜炎などの合併症を起こすことがある。

- ・サル痘では手掌や足底にも各皮疹が出現することなどが、水痘との鑑別に有用とされる。

※令和4年5月以降の欧米を中心とした流行では、以下のような、従来の報告とは異なる臨床徴候が指摘されている。

- ・発熱やリンパ節腫脹などの前駆症状が見られない場合があること
- ・病変が局所（会陰部、肛門周囲や口腔など）に集中しており、全身性の発疹が見られない場合があること
- ・異なる段階の皮疹が同時に見られる場合があること

（2）診断：

- ・水疱や膿疱の内容液や蓋、あるいは組織を用いた PCR 検査による遺伝子の検出
- ・その他、ウイルス分離・同定や、ウイルス粒子の証明、蛍光抗体法などの方法が知られている。

（3）治療：

- ・対症療法
- ・国内で利用可能な薬事承認された治療薬はない。
- ・欧州においては、特異的治療薬としてテコビリマットが承認されており、我が国においても同薬を用いた特定臨床研究が実施されている。

5 予防法

- ・天然痘ワクチンによって約85%発症予防効果があるとされている。
- ・流行地では感受性のある動物や感染者との接触を避けることが大切である。